

笠ヶ岳

笠ヶ岳は中部山岳国立公園の岐阜県側にあり、高さ 2,898 メートルに達します。その形が日本語でカサと呼ばれる円錐形の帽子に似ていることから、この名前が付けました。この山の最初の登頂の記録は 1683 年で、何千体ものブツダの木像を彫ったことで有名な仏僧、円空（1632-1695）によるものです。伝説によれば、彼はこれらの仏像を多くの巡礼の旅の途中で出会った、悲しんでいる人、死に瀕している人、また飢えや自然災害に苦しんでいる人々を慰めるために用いたのだそうです。また中には宿の対価として手渡されたものもありました。

何年も後になって円空に続いたのは、もう一人の仏僧、播隆上人（1786-1840）で、彼は 1823 年に笠ヶ岳の山頂に到達しました。1894 年に日本国外から来た人として初めて登頂に成功したのは、イギリス人宣教師のウォルター・ウェストン（1860-1940）で、このことが日本におけるレクリエーション登山の幕開けに火を付けました。

今日では、多くの登山者は新穂高温泉から頂上まで約九時間余りの笠新道をたどります。山頂のすぐ下にある山小屋は、一泊して翌日下山することを希望する登山者に食事と宿を提供します。クイヤ谷登山道も山頂に続っていますが、この道は困難な場合もあるので、経験豊富な登山家のみが挑戦すべきでしょう。

笠ヶ岳は 6300 万年以上前に火山活動によって形成され、その後断続的に続いた噴火は何重もの火山岩の層をそのカルデラに残しました。これらの火山岩層の断面が露出したものが山頂付近に残っています。春になると、山頂のすぐ下の解けゆく雪田を岐阜県から見ることができ、農家の人々は田植えを開始する時期を判断する際の指標のひとつとして、これらの雪田の変わりゆく形を用いています。